

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

中東和平：エルサレムで直接交渉開始

8月14日夜、イスラエルとパレスチナは、エルサレムで直接交渉を開始した。交渉の詳細は一切公表しない方式で開始されたため、交渉会場も明らかにされていない。各種報道を整理すると、交渉参加者は、7月29・30日のワシントンで開催された予備協議のメンバー（イスラエル側：リブニ司法相、モルホ首相顧問、パレスチナ側：エラカート交渉局長、ムハンマド・シュタイエ大統領顧問）で、イスラエルとパレスチナだけで協議を行い、その結果を米国のインディック中東和平特使に伝えたようである。

評価

中東和平直接交渉は、淡々と再開された。交渉先行きへの期待感の薄さもあり、双方の国民の間には政治的な熱気はないようだ。反対勢力の動きも、活発ではない。それに加えて、交渉に関する情報を一切公表しない方式が取られたことで、当面、中東和平直接交渉に関する報道は限られたものになるだろう。しかし、こうした状況は交渉担当者にとっては悪条件ではない。交渉担当者らは、議題も議論する中身も承知しているし、相手の手持ちカードの中身もおおむね予想できているはずである。彼らに必要なものは、「野次馬」の干渉を遮断して、静かに議論を行う環境と時間である。今回の交渉チームは、それを手に入れているかもしれない。

(中島主席研究員)